



付 20 話 再度留学へ No.2

一人でワシントン空港に着き、タクシーで会場のシェラトンホテルに向かう。多分ここだと思いがはっきりと覚えていない。12月中旬、とても寒く、車中から見るワシントンDCは雪で真っ白。Gould教授は既に数日前より、ホテルに滞在している。ホテルにチェックイン、部屋に荷物を置いた後、時間を合わせて会場に向かう。

ASMEは米国機械学会(American Society of Mechanical Engineers)であり、世界で最も大きな学会の一つである。世界最大の技術書出版社ASME Pressを運営しており、機械工学分野の論文集を発行している。会場前でGould教授と待ち合わせ、受付を済ませる。特別セッション”Nonlinear Finite Element Analysis of Plates and Shells”の論文集を買う。最初に、FEM創始者の一人である英国のArgyris先生が特別招待講演を行う。なんと、次が我々の発表である。Argyrisの研究はヨーロッパにおける有限要素法開発の始まり、同氏提案の21自由度の三角形要素は現在でも優れた要素と評価されている。会場には大勢の聴衆が詰めかけ、H. GallagherやH. Parischなど、第一線の研究者が集まっている。無論、顔を知らないから、Gould先生が教えてくれる。彼の専門分野は原子力発電所のクーリングタワーであり、土木工学に所属するが、機械学会にも関連する。そのため今回の論文も、機械学会の有限要素法分野に投稿したというわけである。

Argyrisの特別公演が終わり、我々の出番が来た。Gould教授が理論について講演、続いて私が扁平球殻の動座屈について話す。緊張と自身のなさで自然と声が小さくなる。司会者が”Loud, Loud”と声をかける。勇気を出し、”Next Slide Please!”と声を張り上げ、発表原稿を読む。発表が終わり、多数の質疑があったが、全く記憶にない。無論、何を答えたかは覚えていない。発表後、教授の友人に”Good Job!”と言われ、気分を良くする。漸く終わった。緊張が一気に吹き飛び、今回の留学はこれで終了。何故か、学生気分に戻ってしまった。パーティは例によって出席せず、すぐさま、雪のワシントンDCの観光に出かける。観光名所は一応回ったが、ほとんど記憶にない。ワシントン記念塔やリンカーン記念館のモニュメントはうっすら覚えている。国会議事堂やホワイトハウスも多分見たと思う。古い昔の観光なんてそんなものだ。印象深い何かがあれば覚えていられない。

二日後、ニューヨークに向かう。Gould教授に挨拶もなし。失礼だ

と思いつつ、「セントルイスに帰り、研究打ち合わせをすれば良い」と勝手に決め込み、心は既に旅行へと向かう。今思えば、本当に自分勝手だ。ニューヨークのケネディ空港に到着する。当時、空港関係者のストがあり、加えて大雪。大幅に到着業務が遅れ、空港で足止めをくらう。漸く旅行カバンを受け取り、マンハッタン島のホテルにタクシーで向かう。またもや相乗り、外は大雪、最後に降りると時刻は既に午後 10 時を過ぎていたと思う。運転手にたくさん載ったのだからチップを上乗せしろと脅される。降りる順番を決めたのは自分ではない。ひどい話である。ここでもめても仕方がないと思い、払うことにした。

フロントでチェックインをする。既にキャンセルされていると言われ、頭が真っ白になる。遅くなると **Reconfirmation**、つまり再確認の電話を入れる必要があった。そのルールを知らず、忘れた自分が悪い。時は既に深夜、外は大雪、初めての場所で外は全く分からない。大トラブルである。窓際でボーと外をみて、どうしようと考えていると、見かねたのか、フロントがやってきて「近くに安宿だが、安心なホテルがある、行くか」と言う。困ったときの親切は本当にうれしい。すぐさま、それに飛びつき、メモを頼りにホテルに向かう。予約なしでは、結構うるさく質問するが、前のホテルから連絡があったらしく、直ぐにチェックインが終了。ホテル代は安い、確かにあまりきれいではない。暖房は配管がむき出し、風呂は汚そう。でも部屋は暖かく、ベッドもお風呂もトイレある。「まあ、ここでいいや」。ベッドの中で、今日一日を振り返る。ほんとについてない一日だった。朝になったら全て忘れよう。「おやすみなさい！」。

翌日は、雪もやみ、晴天。とても寒く、雪が積もっている。借りたコートがとても温かい。朝早くから観光に出かけた。観光客が行くところはほとんど回った。ただ、記憶が明瞭でなく、所々、思い出す程度だ。アメリカでは珍しく、多数のタクシーが流している。イエローキャブだ。懲りているのでタクシーには乗らない、地下鉄には乗ったが、当時は薄暗く汚いという印象。セントラルパークを散歩し、メトロポリタン美術館でお茶をした。昼食はファーストフード、ケチャップをいっぱい付け、フライドチキンを頬張る。間違えてケチャップをコートにぶちまける。「A 君ご免なさい」。建築家の端くれとしてライト設計のグッゲンハイム美術館とサーリネン設計の旧 TWA 空港ターミナルを見た。三日間観光したが思い出せるのは極わずか、本当に情けない。それでも当時はニューヨークを満喫したとを感じる。ケネディ空港にまたもタクシーで出発。次の目的地、サンフランシスコへ飛ぶ。